

家庭医療べんきょう会

—大学で得られない体験と知識—

	代表者	大崎 崇正 (医学B4年)		
構成員	原賀 健一 (医学B6年)	巴 悠記 (医学B5年)	久松 健一 (医学B5年)	
	松尾 美結 (医学B4年)	伊藤 渉 (医学B4年)	野崎 己都美 (医学B3年)	
	川端 友紀子 (医学B3年)	山本 麻紀子 (医学B3年)	福原 茜 (医学B2年)	
	深掘 洋佑 (医学B2年)	桂 寧々 (医学B2年)	重本 航輝 (医学B2年)	
	伊藤 沙妃 (医学B2年)	岡村 海志 (医学B2年)	酒井 ありさ (医学B2年)	
	小山 恭奈 (医学B2年)	今村 一騎 (医学B1年)	森永 敏文 (医学B1年)	
	白坂 菜津子 (医学B1年)	糸永 有伽 (医学B1年)		

1. はじめに～「家庭医療べんきょう会」について～

私達「家庭医療べんきょう会」は地域医療や総合診療、多職種連携に興味を持つ大学生が自主的にこれらについて学ぶサークルです。メンバーは山口大学医学部と山口県立大学看護栄養学部の大学生です（「山口大学おもしろプロジェクト」の構成員には山口大学生のみ記載）。本格的な活動開始から3年弱のまだ新しいサークルですが、月1回程度の定期的なイベントを企画・運営し、精力的に活動しています。昨年度は、①エキスパートを招聘しての講演会・セミナーの開催、②へき地診療所実習、③宇部市民の方々との宇部市の医療についての意見交換会を3つの柱として活動を行ってきました。今年度は「継続」をテーマに前年の活動とともに一つの地域に継続的に関わるような活動・学内でのイベントの活性化を目指して活動してきました。

2. 2017年の主な活動内容

5月	2日	Workshop「木を見て森を見る」、僻地診療所実習・鹿野力いいとこ発見委員会報告会
6月	3日	「徳田安春先生来る！Dr. Gと語る！闘魂塾 in 長州藩」共催
6月	12日	講師招聘のためのミーティング
6月	27日	ミーティング
6月	27日	総合診療の伝道師齊藤先生による医療面接技法レクチャー
7月	1日	「病院版 T&A (Triage&Action) コース」ミーティング
7月	2日	「病院版 T&A (Triage&Action) コース」共催
7月	3日	まちなか保健室の方々とのミーティング
7月	8～9日	「ひと夏の身体診察 本物の診療所で身体診察を学び、揺さぶれの心！」共催
8月	17日	「やまぐち地域医療セミナー」に参加
9月	16～17日	文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」「総合診療医育成セミナー」日本代表 MeTs 参加
9月	28日	地域医療セミナー2017 報告会
10月	4日	ミーティング
10月	8日	小児 T&A コース共催
12月	17日	在宅医療×ICT 講演会主催
12月	26～27日	長門再訪プロジェクト主催
1月	18日	在宅医療診療所実習
1月	20日	小野健康教室①認知症主催
1月	22日	長門再訪プロジェクト報告会
2月	3日	小野健康教室②ロコモ主催
2月	17日	小野健康教室③血圧主催
2月	8～9日	へき地診療所実習①

3月 12～13日 へき地診療所実習②
3月 21日 小野湖の日イベントサポート

3. エキスパートを招聘しての講演会・セミナー

今年度は独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）本部および JCHO 東京城東病院顧問の徳田安春先生を皮切りに去年から引き続き、総合診療部・准教授の齊藤裕之先生をお招きしてセミナーを行いました。また、7月には「おもクロ！（山口の医療をおもしろくするクラブ活動）」との共催でひと夏の身体診察を実施し、その際には20名を超える医師や住民の方々と共に地域医療について考える機会となりました。今年度はさらに12月に当べんきょう会主催の講演会の実施を予定しており、現在実施の準備を進めています。



徳田安春先生来る！Dr. G と語る！闘魂塾 in 長州藩



総合診療の伝道師齊藤先生による医療面接技法レクチャー

4. へき地診療所実習・在宅診療所実習

2015年度から山口大学医学部医学科3年次のカリキュラムから地域医療実習がなくなり、医学科の大学生が山口県内の地域医療の現場を体験する機会は大いに失われました。そこで、「家庭医療べんきょう会」のメンバーからの「離島医療を体験してみたい」という意見と併せて「へき地診療所実習」を企画することとしました。山口県立総合医療センターへき地医療支援部の原田昌範先生にご支援頂き今年度も2018年1月～3月にかけて、実施しました。また今年には在宅医療を積極的に行っている医療機関での実習も行いました。今年度は4名の大学生が地域に出向き様々な学びを得て帰ってきたあと、報告会を実施しました。



僻地診療所実習・在宅医療診療所実習報告会

5. 地域活動・小野健康教室・健康相談会

地域と連続して関わることで地域にとって必要なことを考えた結果、健康教室と健康相談会を実施することとした。医療機関が地域にない小野地域で、1次予防として健康教室を行う。また個人的な不安であったり、健康面での疑問などに答えることを主眼においた健康相談を行った。健康相談はグループ形式を基本として、必要があれば個別の面談とした。これにより地域に住む人同士も健康に関する話をして、聞くことができる。これは地域の結束や配慮、関係性により効果をもたらすと考えた。今年度は「家庭医療べんきょう会」として3回の実施を行った。来年度以降も継続が望まれている。このプロジェクトには山口大学医学系研究科環境保健医学分野助教の長谷亮佑先生のご協力のもと、実施した。この活動は新聞にも取り上げられ、好評を博しており、参加人数も次第にふえている。



健康教室の新聞記事（宇部日報 2018年1月20日付）

6. 対外宣伝広告の報告

島根大学で行われた文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」「総合診療医育成セミナー」日本代表 MeTs 参加に参加し、これまでの活動について、「山口大学おもしろプロジェクト」についての広報活動を兼ねてプレゼンテーションを行ってきました。医学教育についてや大学生の課外活動についてのプレゼンテーション大会である MeTs において、審査委員長賞を頂き、多くの同じ意識を共有できる仲間を多くえるとともに、他大学の大学生にも「山口大学おもしろプロジェクト」の意義などを知ってもらうことが出来ました。また、2018 年 4 月に NHK「情報維新！やまぐち」の「Go to キャンパス」に出演し、「山口大学おもしろプロジェクト」と「家庭医療べんきょう会」についての取材を受けた。周囲の方々からも見たよ！という声を多く頂いた。「山口大学おもしろプロジェクト」についての宣伝に貢献できたと考えている。



受賞記念撮影

7. 今年度を終えての課題・展望

今年度は非常に多くのプロジェクトを実施した。多岐に渡るプロジェクトを実施するにはマンパワーが必要であるとともに、時間も必要である。今後はある程度活動を絞り、注力していくことも必要だと考えられる。今年はそのためのよい試金石になった。どの活動にも自信があるが、この後を引き継ぐ後輩達がどれを選び、進めていくかとても楽しみにしている。今後ともおもしろいプロジェクトだということが周知され、「山口大学おもしろプロジェクト」の支援が得られることを願っています。最後になりましたが、ご支援頂いたおかげで充実した活動を 1 年間行うことが出来ました。ありがとうございました。